

第2次奈良市食育推進計画評価シート

	事業	内容	担当課	平成30年度実績	平成30年度評価
親と子の食育推進	食育に関する講座の実施	地域子育て支援センター・つどいの広場・子育てスポットすくすく広場・子育てスポットにおいて食育に関する講座を実施する。	子ども育成課	「食育相談」、「離乳食講座(時期別)」、「野菜の収穫」、「野菜を使った簡単なお菓子づくり」など、各広場で様々な講座や親子で学べる企画を、実施している。	利用者からは好評であった。また、広場のスタッフも栄養や食生活の新しい情報も吸収できた。今後も利用者のニーズに合わせて各広場で企画し、実施していく。
	公民館等における料理教室や食に関する講座の実施	公民館事業としての料理教室などを通じ、参加者に食への関心を深めていただくとともに、健全な食生活への取組みを啓発する。	生涯学習課	料理教室などを通じ、参加者の食への関心を深める講座や、食をとおした家族・参加者のコミュニケーションを図る講座など、健全な食生活への取組みを行った。 ●子ども対象 3施設、3講座、7回実施、のべ87人参加 ●親子対象 10施設、17講座、19回実施、のべ326人参加 ●一般対象 16施設、32講座、78回実施、のべ876人参加	平成30年度は、22公民館で52講座を開催した。講座数は減少したものの、前年度から取組館が1館増え、より広い地域で取り組むことができた。引き続き、対象を「子ども」「親子」「父子」「シニア」「男性」「女性」などと細かく設定したため、それぞれの対象者の課題・ニーズに合わせた多彩な内容の講座を開催することができ、また対象者が参加しやすいような工夫を行うことで多くの方に参加いただくことができ、大変好評である。さらに、孤食をテーマにした講座も実施するなど、現代の食に対する課題にも積極的に取り組んでいる。なお、この他にも連続講座のなかで食に関して学習する回を設けるなど、幅広い取組ができています。今後も、食育ネットや食に関する団体等とのつながりを活かしながらかき取り組を進める。
	各種健康づくり教室の実施	妊婦・乳幼児・成人を対象に各種健康教室において、栄養・食生活に関する知識と情報を提供する。	健康増進課 都祁保健センター	母親教室、離乳食教室、にこにこ奈良ごはん及び出前講座を通じ、さまざまなライフステージを対象に栄養・食生活に関する知識と情報を提供した。また平成30年度都祁保健センターの新規事業として、育児教室(すこやかキッズ1.2.3)を実施。食生活に関して1歳・3歳児が対象。年齢に応じた食事や栄養に関する情報を提供した。 ・母親教室 12回(食事の講話がある回のみ) 187名 ・離乳食教室 24回 627組(うち個別相談は116件) ・育児教室 3回 16組 ・にこにこ奈良ごはん 9回実施 のべ818名参加 ・小学生とその保護者を対象とした食と運動に関するイベント165名(うち子ども42名)参加 ・地域健康教育「健康ナビ★出前講座」9回実施 255名参加	今年度から母親教室の講話内容を変更したため、講座の事後アンケートで参加者の意識がどのように変わったかを評価している。結果から「主食・主菜・副菜がそろった朝食の摂食」や「おやつを200kcal未満にする」ことに「自信がない」と答える参加者が30%以上を占めていたため、来年度は啓発物を見直す予定である。育児教室(すこやかキッズ1.2.3)は1歳児の保護者に対し、幼児食について講義。食育ボランティアによるおやつ提供もあり、理解が深まった。3歳児は食育遊びを通して子ども自身が食への興味や関心を持つことができた。成人の健康教育ではにこにこ奈良ごはんの講座形式を①一般講座型②実践型(申込制)③講師依頼型に変更したため、②実践型、③講師依頼型では事後アンケートを実施した。アンケート結果から、②実践型ではグループワークや試食等を取り入れることで参加者の気づきや家庭における実践につながりやすいこと、③講師依頼型では新規参加者と40～64歳の参加者が一般講座型より増えた。また、出前講座では小学校の保健委員会や警備会社からの申し込みがあり、壮中年期層に対する健康づくり教育ができたものとする。今後も参加型の講座を行い、壮中年期層に向けたアプローチをしていく。
	乳幼児健康診査時栄養指導の実施	成長過程で生じる食に関する問題や個々の不安を解消し、正しい食習慣の確立を支援するため、個別栄養相談を実施する。発達時期に合わせた栄養・食生活情報を提供する。	健康増進課 都祁保健センター	・4か月児健診対象者 2352名に資料を配付(個別相談0名) ・10か月児健診対象者 2313名に資料を配付(個別相談46名) ・1歳7か月児健診受診者 2299名に資料配付と小集団指導を実施(個別相談136名) ・3歳6か月児健診受診者 2444名(市外住民含む)に資料を配付(個別相談77名)	H28年度から3歳6か月児健診の個別栄養相談件数は横ばいであるが、経過観察になった人数は増加傾向にある。相談内容の個別性、個別相談の必要性が高まってきていると考える。また、当健診の肥満児の割合はH28年度は2.6%であったが、H29年度は3.9%であった。H30年度の取り組みとして問診票の項目に「1日あたりの回数」や「1週間あたりの摂取頻度」といった間食の摂食状況を把握し、データ蓄積を開始している。今後は間食に関するポスター、ちらし等を作成する予定。
	保育における食育推進	食育指導の目標を設定し、保育所及び認定こども園における食育の推進を図る。	こども園推進課	「奈良市立こども園カリキュラム」に基づき、各園が各年齢別に食育目標を設定し、取り組み内容および保育者の支援内容を記した食育計画を作成した。	各園が現場に応じた食育目標を設定し、食育計画を作成、実施することができた。

保育所・幼稚園での食育推進		食に関する指導計画を作成し、望ましい食習慣を身につける保育を展開する。	こども園推進課		
	PTA、保護者会との連携による研修会の開催	PTAや保護者会と連携して研修会を開催し、家庭での適切な食習慣の実践を支援する。	こども園推進課	各園で地域の人々や保護者を対象とした給食の試食会を実施した。	給食の試食会では、咀嚼力や味覚の発達に応じた食材の固さや味付けを体感してもらい、保護者に給食への理解を深めてもらうことができた。
	保育所職員研修	職員を対象にした研修により必要な知識や情報を習得するとともに各園の取り組みについて情報共有を行い、各職員の専門性を活かした食育を実践する。	こども園推進課	園長会、副園長会において食物アレルギーについての研修を実施した。また、クッキング保育の衛生管理について、生活衛生課職員による研修を実施した。他機関が実施する研修受講及び一部の園において園内での研修等を実施した。	食物アレルギーについての研修を行い、改めてアレルギーへの配慮の重要性を確認できた。食育に関する研修で保育の中での食育の重要性を学ぶことができた。
	保育所給食を通じた食育啓発	保護者に配布する保育所給食献立表や園だよりで食事バランスや食文化等の食育を啓発する。	こども園推進課	毎月配布する給食献立表や園だより、年に4回配布する食育だよりを通じて保護者に給食使用食材や望ましい食習慣の情報を発信した。また、保護者の給食への理解を深めてもらうために園内で給食の実物展示や掲示を行った。	食育だよりには、人気の給食献立のレシピ掲載、健康増進課の協力を得て野菜摂取の啓発など実践的な情報提供ができた。
	米飯給食の実施	米飯給食などを通じて、栄養バランスのとれた日本型食生活を啓発する。	こども園推進課	米飯給食を基本とし、主食・主菜・副菜の揃った日本型食生活を保育給食で実施した。	米飯給食を基本として主食・主菜・副菜の揃った保育所給食を実施することで視覚的な栄養バランスの啓発を実施することができた。奈良県産の米を積極的に使用することで地産地消を推進できた。
	保育所における行事食の実施	日本の伝統的な食文化や行事食を給食に取り入れ、食体験を進める。	こども園推進課	七夕や正月等の行事食や「のっぺい汁」や「もみうり」等の奈良の郷土料理を提供した。保護者へは献立表や食育だより、また子どもたちへは給食時間に保育教諭から伝えられるように給食日誌に行事食・伝統食について記した。また昨年度に引き続き、11月24日の「和食」の日にだしを使用した給食を提供し、リーフレットを各家庭に配布した。	保護者や園児が行事食や奈良の郷土料理、和食について知ることができた。また行事食を取り入れることで季節を感じる給食を提供することができた。
	菜園活動体験保育及びクッキング保育の実施	園庭などで栽培収穫した野菜やいも等の食材を使い、園児が調理する楽しさや食物に感謝しながら食べる喜びを味わう保育を行う。	こども園推進課	各園で年齢別に作成した食育計画に基づき、育てた旬の食材を調理したり、給食に取り入れて喫食した。また、アレルギー児の増加のため、使用食材を計画段階でアレルゲンとならないものにする事及び衛生管理について課より助言を行った。活動の際には管理栄養士が現地で、作業の進め方等についても指導を行った。	園児が食材を栽培、収穫、調理するという過程を体験することにより、食材そのものや給食に係る人、調理や食べることへの関心を高めることができた。みんなで作った食事を一緒に食べることで「楽しく食べる」目標を達成することができた。また、現地での指導を行うことで、より衛生的に実施できた。
学校での食育推進	学校における食育推進	学校における食育推進	学校教育課	学校ごとに食育推進年間計画を立て、各学年ごとに実施した。各教科等のカリキュラムに食育の視点を取り入れた授業を実施した。ゲストティーチャーを招いた学習を実施した。校外学習(大和茶研究センター、野外活動等)を実施した。	学校の特色を活かし、教科等と関連付けた食育の取組を進めることができた。奈良市教育協議会(食育推進部会)において、食育実践事例集を作成し、各学校での取組を共有することができた。外部講師を招いたり、現地学習に行ったりすることで、学習の幅が広がった。学校の教育活動の中により定着した食育とするために、研究授業や実践発表等を通して多くの教員が共有する必要がある。
	教科指導における食育推進	教科指導における食育推進			

栄養教諭や学校栄養職員などを中心とした食育推進	栄養教諭や学校栄養職員などを中心とした食育推進	保健給食課 学校教育課	<p>【保健給食課】 栄養教諭・学校栄養職員による食に関する指導を実施した。</p> <p>【学校教育課】 栄養教諭や学校栄養職員による教材や資料の提供、給食指導、栄養指導（アレルギー、栄養素、地産地消 等）等を実施した。</p>	<p>【保健給食課】 昨年度に引き続き、栄養教諭・学校栄養職員未配置校においても実施ができた。</p> <p>【学校教育課】 栄養教諭や学校栄養職員の専門性を生かし、学級担任や教科担当と連携しながら、授業展開や指導を行うことができた。 今後も、学級担任や教科担当等と連携し、児童生徒の関心が高まるような機会や学習内容を提供していきたい。 新規栄養教諭や学校栄養職員への研修等を行い、資質向上を図っていく必要がある。</p>
PTA、保護者会との連携による研修会の開催	PTA、保護者会との連携による研修会の開催	学校教育課	保護者を対象とした給食試食会を実施した。	栄養教諭等の話を通して、学校給食への理解や食への関心が高まった。
食育教育の理解や普及、啓発を目的とした授業参観、懇談会の実施	食育教育の理解や普及、啓発を目的とした授業参観、懇談会の実施	保健給食課 学校教育課	保護者に食育を啓発した。	各学校において、就学時健康診断や新入生保護者説明会等において学校給食におけるアレルギー対応について理解を促した。
			教育センターで「野菜の力大発見」として講座と実習を実施した。	教育センターで実施した「野菜の力大発見」では、白ねぎやしいたけについて知ってもらうことができた。「白ねぎが苦手だったけど今回で少し白ねぎを好きになれたような気がする」「しいたけがこんなにおいしいと思いませんでした」等の感想が聞かれた。
職員研修	食に関する指導の公開授業及び研究協議、講演会などを行い、食育指導に関する教職員の指導力向上に努める。	学校教育課	奈良市教育協議会（食育推進部会）において、研究授業やそれに伴う事前指導、授業研修、研究協議での指導助言等を実施した。	<p>次の3つの研究授業、研究協議、及び事前指導を行った。いずれも栄養教諭、栄養職員と教員とのチームティーチング授業で教科等のねらいにせまる食の観点を取入れた授業展開であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 1年生 学級活動 「すききらいせずなんでもたべよう」 昔から伝わる物や料理に込められた願いを考えるを通して、伝統や文化に親しみ、愛着を持つとする心情を育てる。 ・小学校 2年生 道徳科「おせちのひみつ」 健康な毎日を送るためにはバランスの良い食事が大切であることを知る。 ・中学校 1年生 道徳科「給食から学ぶ」 給食を通して食べ物を大切に作る心情や態度を育む。
指導主事による食育指導への指導助言	学校・幼稚園の要請に応じ、指導主事が食育指導の改善、充実、発展のために指導助言を行う。			
地元食材を使用した学校給食の実施	新鮮な食材の確保と地域理解（自然、食文化、産業等の理解）を深めるために、学校給食における地元産の農産物及び加工品の使用を推進する。	保健給食課	JAならけんと定期的な会議を行い、今まで使用実績のなかった「味吉野ピーマン」や「県産大根」を使用できた。昨年度に引き続き市内で製造された調味料、奈良市産米、大和まなや片平あかねなどの大和野菜、大和茶も使用した。	地元で栽培や製造された食材を使用するとともに、「食べ物紹介」指導資料を作成して給食指導に活用した。郷土料理や伝統食、地域の行事と関係する行事食の提供も行き給食指導を実施できた。
米飯給食の実施	米飯給食などを通じて、栄養バランスのとれた日本型食生活を啓発する。	保健給食課	今年度は「古都ならの日」を設定し、白米を使用した給食を月に一回実施した。	給食を通じ、日本型食生活について啓発することができた。

給食だよりを通じた食育啓発	保護者などに対して望ましい食習慣や健全な食生活を啓発するために、学校給食献立表、食育に関する啓発記事を掲載した給食だよりの配布に努める。	保健給食課	家庭配布献立表を作成・配布し、保護者へ情報提供および啓発を行った。また、児童生徒に対しても各種指導資料を使い、給食を活用した指導を行った。	年間の指導計画に基づいて、作成された家庭配布献立表や各種指導資料を用い、給食を活用した指導ができた。
「食育の日」「食育月間」の普及啓発	「食育の日」、「食育月間」に関する啓発記事をホームページ・ならしみんだよりに掲載するなどにより食育の周知を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館での食に関する図書展示(6月中) ・本庁通路啓発(6/25～29) ・しみんだより食育コラムを毎月掲載(12回) ・はぐくみセンターでの啓発展示(6/8～6/13) ・医療政策課ツイッターでの情報発信 	ホームページ、しみんだより、図書館、SNSを活用した積極的な情報発信ができた。しみんだより食育コラムに掲載した奈良の米や団体への問合せがあり、市民の関心の高さが伺われた。
特定給食施設指導	健康増進法に基づく特定給食施設などの施設管理者及び給食関係者に対し栄養改善などの指導に努める。	医療政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養管理報告書による調査1回(6月)。 ・特定給食施設研修会2回(7/13、9/13) 	病院・高齢者施設を対象に、市の糖尿病相談窓口の現状や施設のモデル的な取組など最新の情報を発信できた。児童福祉施設・学校を対象に、以前からニーズのあった食育をテーマとした研修を実施したことで、栄養士・調理員・保育士等が各施設の食育推進計画を互いに共有し、日々の給食を中心とした食育の大切さや評価の重要性を再確認することができた。
食育推進イベントの開催(平成30年度は計画策定に係る会議等含む)	食育の様々な分野を体験できるイベントを関係団体と協働で行い、啓発をする。		<ul style="list-style-type: none"> ・「ならの食育未来ワークショップ」開催(9/16) ・奈良市食育推進会議2回開催(8/28、3/5) ・奈良市食育推進会議庁内連絡会作業部会(9/11) ・「弁当の日講演会・調理実習」後援・協力 ・「食育カフェ」1回開催 	ならの未来ワークショップでは、6つの班で2テーマ「普段の食生活や食環境の問題点、ならの食育で大切にしたいこと」、「栄養バランスの改善や食文化の継承、地産地消を実践するために必要な取組や支援」について市民意識調査結果を見ながら意見交換を行い、市民の現状と今後の方向性が共有できた。庁内連絡会は当初2回を予定していたところが1回となったが、メール等で各課と調整をはかり協力いただいたことで当初予定の3月策定とすることができた。
食育協働ネットワークの構築(新・計画P10)	食育の推進において、家庭や保育・教育関係・食品関連事業者などが相互に連携し取組みをすすめることができるよう、ネットワークを構築する。	医療政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市食育ネット設立総会・交流会の開催(5/25)67名参加 ・奈良市食育ネット:61団体参加(平成31年3月1日現在) ・奈良市食育ネット幹事会2回開催(9/7、1/29) ならの食未来ワークショップの企画調整 食育意識調査結果・食育推進計画案に関する意見交換 ・奈良市食育ネットフェイスブックページ・グループを開設(6月) ・農林水産省「第2回食育活動表彰」地方公共団体の部において消費・安全局長賞を受賞。第2回食育活動表彰事例集に掲載された。 	第2次奈良市食育推進計画期間中に奈良市食育ネットが設立されたことで、次期第3次計画に組織として位置づけることが出来、今後の発展が期待できる。奈良市食育ネット設立総会・交流会開催により、市や食育ネットの取組を広く周知できた。フェイスブック開設によりSNSを使った広報が可能になったことで、団体が自由に取組を周知・報告できるようになった。食育つながるネット事業の取組が評価されたことで市やこれまで関わってこられた地域団体にとって励みとなり、奈良市食育ネット設立に向けての機運が高まった。
地産地消推進のためのイベント開催	新鮮な食材の確保と地域理解(自然、食文化、産業等の理解)を深めるために、イベントなどを通じて地元産の農産物及び加工品の使用を推進する。	農政課	旬菜メルカート:近隣に直売所が開店したこと・出店者の意向等をふまえ12月に開催を終了した。 出張メルカート:6件のマッチングを行なった。 ミニ直売所設置補助金:7箇所を利用された。1件は新規利用。 大和茶PR事業:小・中学校にて主に小3・中3向けに日本茶インストラクターが大和茶について授業を行なった。	旬菜メルカートは終了したが、出張メルカートやミニ直売所、農協の直売所と近畿大学ヘルスチーム菜良の顔つなぎといった民間の活動を支援することができた。市内16校の小中学校に出向き授業を行なった。

生涯を通じての食育推進

<p>公民館等における料理教室や食に関する講座の実施(再掲)</p>	<p>公民館事業としての料理教室などを通じ、参加者に食への関心を深めていただくとともに、健全な食生活への取組みを啓発する。</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>料理教室などを通じ、参加者の食への関心を深める講座や、食をとおした家族・参加者のコミュニケーションを図る講座など、健全な食生活への取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども対象 3施設、3講座、7回実施、のべ87人参加 ●親子対象 10施設、17講座、19回実施、のべ326人参加 ●一般対象 16施設、32講座、78回実施、のべ876人参加 	<p>平成30年度は、22公民館で52講座を開催した。講座数は減少したものの、前年度から取組館が1館増え、より広い地域で取り組むことができた。引き続き、対象を「子ども」「親子」「父子」「子どもと祖父母」「男性」「女性」などと細かく設定したため、それぞれの対象者の課題・ニーズに合わせた多彩な内容の講座を開催することができ、また対象者が参加しやすいような工夫を行うことで多くの方に参加いただくことができ、大変好評である。さらに、孤食をテーマにした講座も実施するなど、現代の食に対する課題にも積極的に取り組んでいる。なお、この他にも連続講座のなかで食に関して学習する回を設けるなど、幅広い取組ができています。今後も、食育ネットや食に関する団体等とのつながりを活かしながらかつ引き続き取組を進める。</p>
<p>朝食を中心とした生活習慣に関する情報の発信</p>	<p>生活習慣の改善などや家庭における健康づくりをホームページ・ならしみんだより・リーフレット等による情報発信する。</p>	<p>健康増進課 都祁保健センター</p>	<p>前年同様、窓口や健診会場でレシピを設置している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診同封のリーフレット配布枚数 4743枚(1歳7か月児健診・3歳6か月児健診受診者の合計数) ・レシピ配布枚数 643枚 <p>成人の健康教育では通路啓発及び窓口にてリーフレットの配布・野菜たっぷりレシピの配布を行っている。レシピはホームページから閲覧・ダウンロードが可能である。(H31.3月末時点で3305枚配布)。</p> <p>都祁保健センターでは乳がん・子宮頸がん検診の場を活用。食育ボランティアの協力のもと日常の間食の種類・量を振り返り、バランスの良い食事の摂り方を169名に対し情報提供した。</p>	<p>今後は母親教室のアンケートや乳幼児健診などの問診票より朝食摂食状況に関するデータを蓄積し配布資料の見直しを図る。特定健康診査問診票から40～74歳までの朝食摂取状況を把握し、配布資料の見直しを図る。ホームページでの閲覧・ダウンロードをすることができるレシピを随時追加予定。</p>
<p>各種健康づくり教室の実施(再掲)</p>	<p>妊婦・乳幼児・成人を対象に各種健康教室において、栄養・食生活に関する知識と情報を提供する。</p>	<p>健康増進課 都祁保健センター</p>	<p>母親教室、離乳食教室、にこにこ奈良ごはん及び出前講座を通じ、さまざまなライフステージを対象に栄養・食生活に関する知識と情報を提供した。また平成30年度都祁保健センターの新規事業として、育児教室(すこやかキッズ1.2.3)を実施。食生活に関して1歳・3歳児が対象。年齢に応じた食事や栄養に関する情報を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親教室 12回(食事の講話がある回のみ) 187名 ・離乳食教室 24回 627組(うち個別相談は116件) ・育児教室 3回 16組 <ul style="list-style-type: none"> ・にこにこ奈良ごはん 9回実施 のべ818名参加 ・小学生とその保護者を対象とした食と運動に関するイベント165名(うち子ども42名)参加 ・地域健康教育「健康ナビ★出前講座」9回実施 255名参加 	<p>今年度から母親教室の講話内容を変更したため、講座の事後アンケートで参加者の意識がどのように変わったかを評価している。結果から「主食・主菜・副菜がそろった朝食の摂食」や「おやつを200kcal未満にする」ことに「自信がない」と答える参加者が30%以上を占めていたため、来年度は啓発物を見直す予定である。育児教室(すこやかキッズ1.2.3)は1歳児の保護者に対し、幼児食について講義。食育ボランティアによるおやつ提供もあり、理解が深まった。3歳児は食育遊びを通して子ども自身が食への興味や関心を持つことができた。</p> <p>成人の健康教育ではにこにこ奈良ごはんの講座形式を①一般講座型②実践型(申込制)③講師依頼型に変更したため、②実践型、③講師依頼型では事後アンケートを実施した。アンケート結果から、②実践型ではグループワークや試食等を取り入れることで参加者の気づきや家庭における実践につながりやすいこと、③講師依頼型では新規参加者と40～64歳の参加者が一般講座型より増えた。また、出前講座では小学校の保健委員会や警備会社からの申し込みがあり、壮中年期層に対する健康づくり教育ができたものとする。今後も参加型の講座を行い、壮中年期層に向けたアプローチをしていく。</p>

<p>食生活改善推進員支援</p>	<p>食育推進のため、食に関する正しい知識をより多くの人に普及する体制の充実をめざして、食生活改善推進員対象の研修会や活動に対する専門的アドバイスなどを行う。</p>	<p>健康増進課 都祁保健センター</p>	<p>事業の委託相手方となる奈良市食生活改善推進員協議会が平成31年3月末で解散となった。今後の奈良市の食生活改善活動については、模索しているところである。</p>	<p>既存のボランティア団体を活用し、生涯を通じた食育を推進していく。</p>
<p>食の安全・安心に関する情報提供</p>	<p>食品のリスクコミュニケーションに関する説明会などを実施し、食品の安全性に関する情報の提供を行う。</p>	<p>生活衛生課</p>	<p>食品衛生講習会を事業者や市民向け等に計28回開催。広報車による食中毒予防の街宣、食中毒予防街頭キャンペーンの実施、啓発グッズの配布、市役所・はぐくみセンターにおける食中毒予防のパネル展示、しみんだより・ホームページ上での食品安全に係る啓発を行った。 また、2月15日に市民向けに食品添加物についてのリスクコミュニケーションを開催し、食の安全性についての情報提供、意見交換を行った。</p>	<p>平成30年6月に食品衛生法が改正されてHACCPによる衛生管理の義務化が公布されたことを受け、事業者に対しHACCPによる衛生管理についての講習会を許可の更新の際などに開催した。今後も引き続き行っていく。 また、2月に開催したリスクコミュニケーションには定員を超える市民の方からの参加があり、食品添加物の安全性に対する関心の高さがうかがわれた。</p>